

レプトスピラ症とは

レプトスピラ症は病原性レプトスピラを病原体とする感染症である。主な感染経路は保菌動物の尿で汚染された水や土壌との接触である。発熱や筋肉痛などの症状を呈し、重症型（ワイル病）では黄疸や腎障害などを生じる。

患者報告：海外ではフィリピン、タイなどの熱帯・亜熱帯地域で、台風や季節的な大雨による洪水後の発生が例年報告されている。日本国内では、沖縄県での水辺でのレジャー関連の報告が多くみられるほか、豪雨や台風による洪水後の発生や農作業による感染が各地で報告されている。

潜伏期間：5日から14日程度

症状：軽症型では発熱や筋肉痛などの風邪様症状のみで軽快する。

重症型では黄疸や出血、腎障害などが起こり、死亡することがある。

致死率：重症例は5～20%との報告あり

感染経路：げっ歯類をはじめとする保菌動物の尿で汚染された水や土壌に、傷や粘膜が接触することによる。病原体に汚染された水や食物の摂取による感染も報告されている。